第 49 回歴史探訪の会 堺の「観壕クルーズ」と「利晶の杜」見学探訪

開催日平成 28 年 4 月 2 日 ご協力 堺観光ボランティア NPO 観壕クルーズ Sakai 参加者 29 名 お世話、記事は森 尚夫

■観壕クルーズで自由都市堺中世からの変遷

中世、堺の町が自由都市だった頃に出来た環壕を観光船で、のんびりと巡るツアーです。 桜の開花に合わせて運行日が決まる人気のクルーズで、4月2日が初日と決まり、インターネットで申し込み、やっと取れたクルーズで満喫して頂けましたでしょうか。

ツアー中は観光ガイドが中世から現在まで約1時間の間説明をしてくれて、大変勉強になりました。(桜も見なければならないし写真も撮らなければ、で大変でした) 写真で確認ください。クルーズの乗船定員の関係で2班になりました。



























■千利休と与謝野晶子

「利休と晶子」を通じて安土桃山時代の堺、明治、大正、昭和と激動の時代にあって常に新しい世界に挑戦した歌人の、体験出来る「さかい利晶の杜」2015年(平成27年3月オープン)

●一階には千利休茶の湯館

利休と堺のかかわりを読み解くコーナー、天下人とのつながり、利休によって大成させた「わび茶」と3コーナーからわかりやすく紹介していました。

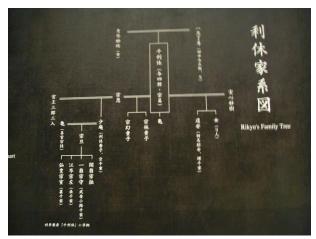
利休はなぜ切腹したのか、諸説ありますが、黒茶碗始め、大徳寺門上利休木造、茶道具の私曲、隠れキリシタン、等々ありますが、利休には茶頭としての立場、商人としての立場、政治的な立場があった、多くの大名が弟子となり秀吉すら師事していた。

秀吉の弟、秀長が没した直後から一気にさまざまの要因が絡み合って切腹となる、

反利休派が一気に動く、その際、前にあげました黒茶碗始め秀吉を見下ろしているとの情報 が石田三成から~ 舘の隣に<mark>利休生誕の地屋敷跡の井戸</mark>があり、ここでもガイドの懇切丁寧 な説明をして頂きました。



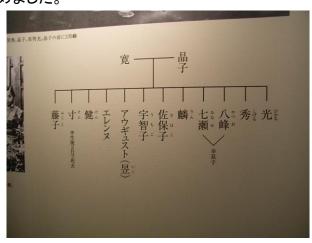






●2 階には与謝野晶子記念館

ここでは前述しました、明治、大正、昭和と常に新しい世界に挑戦し表現し続けた晶子を紹介されていました、夫、寛との出会いや旅、大家族子供 1 ダース、晶子の生家・和菓子商「<mark>駿河屋</mark>」の模造、「みだれ髪」に始まる多くの詩歌集出版、原稿、短冊等、ドラマチックな生涯を楽しめました。





館の近くに<mark>与謝野晶子生家の跡</mark>に足を運び、没後 20 年にあたる昭和 36 年建立された歌碑がありました。晶子 26 才雑誌「明星」に初デビューの歌

「海こひし、潮の遠鳴りかぞえつつ、少女となりし、父母の家」 近くに<mark>晶子の立像</mark>がありましたので見学して解散です











